

あなたの田んぼは大丈夫？

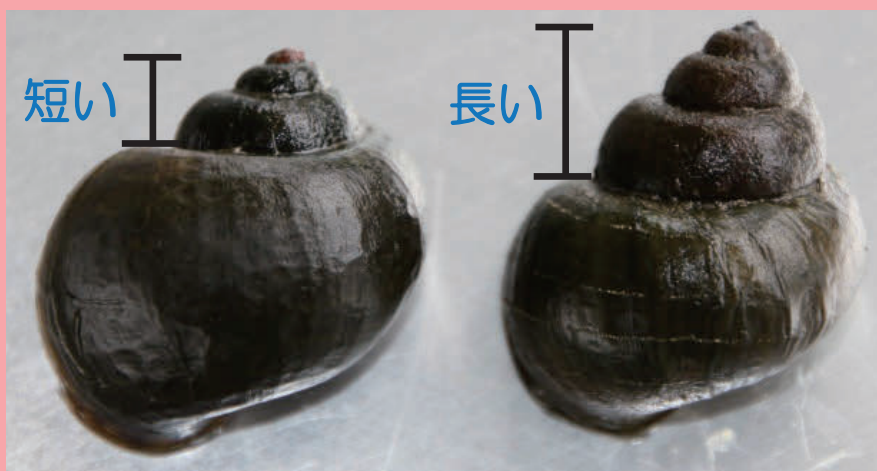
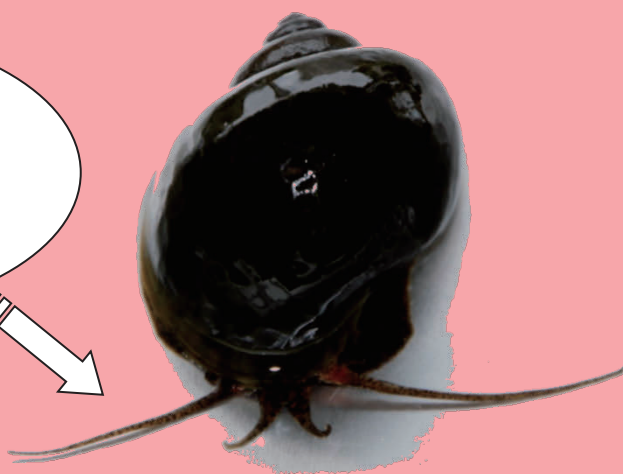
ジャンボタニシに注意！

(和名：スクミリンゴガイ)

地域みんなで防除対策に取り組み、被害を防ぎましょう！

ジャンボタニシは、在来のマールタニシと比べて、殻のらせん上部の長さが短く、丸みを帯びており、成貝は5cm程度に成長します。

ひげを出すのも
在来タニシとの
相違点

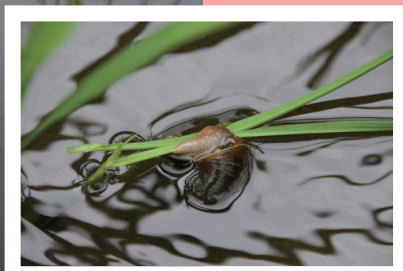


短い | 長い
ジャンボタニシ 在来のマールタニシ

生態と被害



食害による
欠株の様子



卵塊

ジャンボタニシは水田の土壌内や、水路等で越冬します。暖冬だと翌春は被害が発生しやすくなります。気温が上昇し、水田に水が張られると活動を開始し、取水によって水路からも水田に侵入します。水田内の水が深いところで活発に活動し、移植3週間後頃までの小さな苗を好んで食害します。苗がほとんど無くなる被害が発生する場合があります。

防除対策

耕種的防除や薬剤防除を組み合わせることで被害を軽減させましょう。

- ☑ 土壌中の越冬貝の防除（秋期の石灰窒素施用、冬期の耕うん）
 - ☑ 水田、水路の貝防除（貝の捕殺や卵の払い落とし、水路の泥上げ）
 - ☑ 水路からの侵入防止（取水口に目合5～10mmのネットや金網を設置）
 - ☑ イネ移植後2～3週間の浅水管理（水深4cm以下）
 - ☑ 水田での薬剤防除（スクミノン、スクミンバイト3、スクミハンター、キタジンP粒剤、パダン粒剤4等を散布）
- * 農薬登録情報は平成30年11月現在